

編：岡田 定，堀之内秀仁，藤井健夫

あなたへの医師キャリアガイダンス

書評者：市村 公一（あおばメンタルクリニック院長）

この本は聖路加国際病院の、年代もさまざまな50名のOB・OGの先生方が、医師を志した理由から学生時代の思い出、研修病院を決めた経緯、実際に経験した研修の感想、その後の進路を決めた理由と現職への思い、そして最後に後輩へのアドバイスを書かれたものを、医学部卒業年次の若い方順にまとめられたものだ。こうした本が商品として成り立つこと自体、「聖路加」のブランド力の証であろうが、そのブランド力を育て、維持発展させてこられたのが、ここに登場される先生方ご自身でもあろう。

私は卒後研修必修化前の2003年、当時の研修実態を探ろうと全国25ヶ所の病院を回り、『臨床研修の現在』（医学書院）という本にまとめたが、その際最初に訪問した聖路加国際病院の様子は今も鮮明に記憶している。循環器、呼吸器、内分泌などさまざまな疾患の患者を集めた混合病棟を3年目のレジデントをリーダーにきっちり

した屋根瓦式のチームで診る。その体制はもちろんだが、看護師や薬剤師も交えた毎朝のミーティングや、知識と技能の伝授の場として充実した回診など、まさに理想的な研修の場だと感じたものだった。あの厳しく充実したトレーニングで鍛えられたからこそ、ここに登場される先生方の今があるのだとも思う。

もっとも、初期研修はほかの病院で終えたという方も、意外にも何名か登場される。後期研修はどうしようと悩んでおられる初期研修医のみなさんには、大いに参考になるだろう。もちろん、これから研修病院を考えようという医学部上級生のみなさんには、どの先生のお話も参考になるに違いない。また、明確な目標はなく、漠然と医学部に入ったという学生のみなさんにも、将来を考えるうえで大いに参考と刺激になるだろう。残念ながら外科系の先生のお話はないが、内科系の医師といってもこんなにいろいろな生き方が

あるのかと、驚かれるに違いない。

この本を読まれる医学生や研修医のみなさんの多くは、まだ20代だろう。みなさんには無限の可能性がある。この本に登場されるどの先生にも、そう、最後に登場される日野原重明先生にだって、なれる可能性がある。この本で私に印象的だったのは、登場される多くの先生が、比較的早い段階でご自身のロールモデルとなる先生と出会われていることだ。みなさんもぜひ「自分もこんな先生になりたい!」と思える先生を見つけてください。万一身近にいないければ、この本のなかにその候補となる先生がたくさんおられるはずだ。ロールモデルを見つけ、高い志を持って、日々の勉強や研修に励んでください。

● A5 頁240 2012年
定価1,890円
(本体1,800円+税5%)
[ISBN978-4-260-01620-9]
医学書院刊